

玩具の今後

山田徳兵衛

玩具の戦災

全国の家庭や、幼稚園託児場でも随分たくさん玩具が戦災に遭つたことでしょう。關東大地震のうちに、東京の一部の人たちが集まつて、震災に滅した人形たちのために「人形供養」を行つたことがあります。この度の戦災をこうむつたかわい、玩具たちにも供養をしてやりたいような気がいたします。

玩具の戦災は、そのような需要者の面ばかりではありません。玩具の工場、玩具問屋の倉庫でも非常な數量が災害をこうむりました。なにしろ、東京、大阪、名古屋、静岡など主なる玩具の産地がほとんど戦災を受けたのですから。

しかし、玩具業者の自業に對する自覺と熱意は、厄難を排して復興につとめてまいりましたので、この春ごろからは着々と舊く復しつゝあります。たゞ、何分にもものような工場や、機械や、型の設備が急速には回復しないと、各資材

が不足勝ちなので、製品が種類の偏在し、殊に、機械で作られるものは未だ僅かしか復活いたしません。

戦前の玩具

わが國の玩具は、明治末頃からだん／＼發展をはじめて來ましたが、第一次歐洲大戰となつて、玩具國たるドイツの玩具が世界に消廻らなくなると、貿易品としても玩具の需要がしきりにわが國に向けられてきたので、種類の上からも、技術の上からも又産業的にも大發展をしました。そして、世界屈指の玩具生産國となり昭和十二年には實に四千二百餘萬圓（總輸出額の一、三％）とゆう輸出を見るまでにいたしました。

輸出の數字によつて玩具の内容をトすることはおかしいようですが、實際はそれと併行して玩具についての研究や、向上運動も各所に行われてきて、内容的にも大いに進歩いたしました。

戦時の玩具

この度の戦争がようやく酷になつた頃、新聞紙は、イタリアが玩具製造禁止令を出したことを傳えました。わが國でも玩具生産は非常な壓迫を受け、人的にも、物的にもほとんど何等の保護も與えられない状態になりました。しかし、一部の識者や、業者の努力により最後まで製造は禁止を受けませんでした。昭和十九年十一月には乳幼児（學齡まで）の玩具百三十四種を限つて一種の戦時型規格を定めそれ以外のものはいちいち許可を受けなければ販賣出來ぬ窮屈さになりました。

この結果は玩具生産意欲が一般に冷却しましてほとんど新しい玩具の新築は中絶の状態になりました。

こんなに玩具はいじめられました。當時といえども戦災をこうむつた壕舎の子供たちや、疎開先の子供たちが、たつた一つ買つて貰つた玩具をどんなに喜んで持つたか——むしろこんな時こそ玩具とゆうものゝほんとうの威力を見せたことは、皆様も御見聞なされたことゝ存じます。

戦後の玩具

終戦後、業界は、戦時中の謂わゆる統制型を改善して弾力性を持つ協同組合を都府縣別に作り、その上部に日本玩具商

工業協同組合をおいて全國的統一をとつて、玩具の製品、價格の適正を計り、資材の重點的配給を行い、さらに識者、需要者をも加えた玩具研究室とゆうものを設けて、玩具の文化的検討と指導を行いつゝあります。

最近では、軍需工場の玩具に轉換するものも相當多く、玩具製造の齒車の音はようやく全國的に賑やかになつてまいりました。

玩具と税金

未だに多くの需要者は御存じないと思われませんが、玩具には、昭和十九年一月以來製造價格の六割とゆう高税がかかっています。

このため、とかく玩具が高價になり、云いかえれば價格に比して粗悪になり勝ちなのであります。

これは、戦時の特別措置として或いはやむを得ぬものかも知れませんが、今日となつては玩具の文化的使命からいつて速かに取止むべきものと思ひます。

東京の一部の需要者の請願や、全國組合の陣情が效を奏したか、幸いこの九月から製造價格十圓未滿（小賣として十五六圓）のものは免税になりましたが、それ以上のものは今日も依然として高税になつています。玩具とゆうものにこんな高税をかけていることは、何だか外國にきこえたら恥かしいようにさえ思えます。

これは、ぜひ全面的免税になるよう一般需要者の方面からも聲を擧げていたゞきたいと思ひます。そして、よい玩具を、すこしでも安く子供たちに頒つようになりたいものと思ひます。

今後の玩具

新しい文化國家建設といつても俄かに完成するものではありません。どうしても、次代の國民たる子供たちに期待するところ大であることは申すまでもありません。

この意味に於て、政府も玩具の文化的使命をさらに大きく認識してもらいたいと思ひます。

今日、玩具の種類の偏在していること、粗悪の面のあることも諸資材の入手難が大原因です。この點だけでも、政府がもうすこし玩具を重要視してもらえたらと思ひます。

これからは、業者もおちついて「よい玩具」の生産に努力することでしょう。一方、需要者の側でも玩具を買われる場合「本當によい玩具」をもとめるよう一層御注意をされたいのです。従来は、ともすれば「よい玩具」より、「きれいな玩具」「新形の玩具」のみが歓迎され、本當によいものが案外賣れないとゆうようなことが多かつたため、良心的な製造家はむしろ失敗ばかりしている結果になりました。資材の貴い折柄でもあり、出来ることなら、玩具の生産者と、需要者が意志の疏通を計つて、實行の心配などせずに、安心してよ

いものを作るようになったら、理想的と思ひます。需要者と、生産者の好い握手によつて、玩具はよくなるのでしよう。

○親しい會話……4

「おなかどうすいたわね」

「ほんとに。ぺこ〜よ」

「歸りに、うちへおよりにならない。田舎からおもちが來たの」

「あらうれし。だけど、いゝかしら」

「もちよ。母もあなたをおつれしるつて言つてたの」

「わたしの腹へらしをいゝつけたんでしよう。しかし、もちたいものは親友ね」

「いやよ。いやにもちあげたりして」

「うかうわ。わたしおもち大すきなんですもの。おいしいわね」

「だれだつて好きでしょう」

「子どもにおもちや。先生におもち」

「ホ、ホ、へんなしやれね」

「うま、いゝもりよ」